



滋賀県草津市立草津中学校

令和5年4月14日（金）発行

「いのちかがやき 心豊かな生徒の育成」
～ひとを大切に ひとつを大切に～

4月10日現在 全校生徒数686人



「出会い」を生かす

草津中学校 校長 高田 聡

1年生の皆さん、入学おめでとうございます。2・3年生の皆さん、進級おめでとうございます。いよいよ新学年が始まりました。新しい学校、新しいクラスでの出会いはどうだったでしょうか。今回はそんな「出会い」について考えていきたいと思います。

日々の暮らしの中で、私たちは様々な人に会い、またさまざまな出来事を体験します。そういった一つひとつの「出会い」に対して、日頃どのように心を向けているでしょうか。同じ日に、同じ場所で、同じ「出会い」を経験した人たちがいたとしても、その「出会い」に対して全員が全く同じ感情を持つことはないでしょう。あるいは、同じ人でもタイミング次第でその「出会い」の意味合いが変わってくることもあります。こうした違いは、自分自身の受け止め方によって生じるものといえます。

「出会い」を大切に受け止めようとする心の姿勢は、日常の小さな言動の中にも表れてくるように思います。例えば日々様々な人と交わすあいさつ。私たちが進んであいさつをするときは、相手に向かって心を開き、その場での出会いを前向きに受け止める心の準備ができているように思えます。イライラ、せかせかとした気持ちでいるときは、そうした心の準備はしにくいです。心の余裕がなく

「忙しい、忙しい」とばかり思っていると、人との出会いを

より良く生かそうとする気持ちは薄れてしまうのかもしれない。また相手を受け入れようとしないかたくなな気持ちでいる場合も、その出会いを自分自身の成長につなげていくことはできないでしょう。

「啐啄（そったく）」という言葉があります。卵の中で今まさに生まれようとするヒナが内側から殻をつつくと、その動きを感じた親鳥は外から殻をつついてこれを助けようとします。内と外からつつくそのタイミングがうまく合ったときに殻が割れて、ヒナが誕生するのです。人と人の出会いもこれに似たところがあるのではないのでしょうか。自分が「相手を受け入れる心の準備」をすることの大切さは言うまでもありませんが、それが相手の呼吸とも合ったとき、「互いに育ち合う」という関係性に発展していく可能性が生まれるのでしょうか。

私たちの日常生活は多くの人との関わり合いの中にあり、そこでは日々さまざまな出会いを経験することになります。そのすべてが親密な人間関係に発展するとは限らず、「あるときたまたま、ほんの少し関わりを持っただけ」で終わる場合も少なくありません。それでもお互いに「育ち合う」という関係性は、家族や友人といった狭い範囲にとどまるものではないはずです。行きずりの人から受けた親切が心に響いて、「自分も誰かに対して思いやりの心を発揮できるように」と考えることもあるでしょう。相手のことをよく知らなくても、また直に接するのはその一回きりだったとしても、「あのとき偶然に

出会ったあの人の一言に勇気を与えられた」「大切なことを学んだ」という経験を持つ人もいるでしょう。日々の「小さな出会い」もまた、自分自身を形づくっていく要素であり、どのような相手とも「育ち合う」という関係になれる可能性がある・・・そう考えたなら、一つひとつの出会いを前向きに受け止めようとする気持ちが湧いてくるのではないのでしょうか。それは「一人ひとりを大切にすること」という姿勢を培い、人生を心豊かにしていく上でも重要なことなのです。（ニューモラル No. 635 抜粋）



<入学式・新入生の呼名>

